

麻疹、おたふく風邪、風疹(MMR)ワクチン

Measles, Mumps, Rubella (MMR) Vaccine

お子様の安全を守りましょう。

すべてのワクチンを予定通り接種してください。

すべてのワクチンを予定通りに接種することで、生涯にわたり多くの病気からお子様を守ることができます。

予防接種は過去 50 年間、カナダにおいて他のどの健康対策よりも多くの命を救ってきました。

MMR ワクチンとは何か？

MMR ワクチンは以下の病気から身を守ります：

- 麻疹
- おたふく風邪
- 風疹

MMR ワクチンは、麻疹、おたふく風邪、風疹ウイルスの毒素を弱めた成分が含まれており、カナダ保健省により承認されています。MMR ワクチンは、お子様が定期的に接種するワクチンとして、無料で提供されます。医療提供者に電話し、ご予約ください。

誰が MMR ワクチンを接種すべきか？

お子様は、MMR ワクチンを、2 回に分けて接種します。生後 12 か月に 1 回目の接種をし、4 歳から 6 歳の間に 2 回目を接種します。水疱瘡(水痘)に対する予防も必要な子供には、2 回目接種時に、麻疹、おたふく風邪、風疹、水痘(MMRV)の混合ワクチンを接種できます。

MMRV ワクチンに関する詳細は、[ヘルスリンク BC ファイル#14e 麻疹、おたふく風邪、風疹、水痘\(MMRV\)ワクチン](#)をご確認ください。

このワクチンは、他の小児向けワクチンと同時期に接種します。

MMR ワクチン	子供のワクチン接種年齢
1 回目接種	生後 12 か月
2 回目接種	4 歳から 6 歳の間

下記に該当する方には、MMR ワクチンも無料で提供されます。

- 麻疹が流行っている国へ旅行する予定がある、または麻疹に罹っている人との接触があった生後 6 か月から 11 ヶ月の乳児。(これらの子供は、生後 12 か月と 4 歳から 6 歳の間に、追加でワクチンを 2 回接種する必要があります)
- 風疹に対する免疫がない出産可能年齢の女性
- 麻疹、おたふく風邪、風疹に対する免疫がない、または免疫がある証拠がない年長の子供と成人

1970 年以降(医療従事者の場合は 1957 年以降)に生まれた方は、ワクチンを 2 回接種することが推奨されています。これは旅行する場合、特に重要です。

全ての予防接種を記録することは重要です。

MMR ワクチンによる恩恵は何か？

MMR ワクチン接種は、深刻で時に死に至る病気である麻疹、おたふく風邪、風疹から身を守るための最適な方法です。

ワクチンを接種することで、周りの人を保護することにもつながります。

ワクチン接種後に起こりうる副作用とは？

ワクチンは非常に安全です。麻疹、おたふく風邪、風疹に罹るよりもワクチンを接種する方がずっと安全です。

ワクチンによる一般的な副作用には、ワクチン接種箇所の痛み、発赤、腫れなどがあります。発熱、頭痛、筋肉痛、吐き気、麻疹のような発疹、頬腺や頸部腺の腫れは、ワクチンを接種してから約 7-12 日後に発生する可能性があります。一時的な関節痛は、10 代および成人女性に見られる場合があります。

発熱や痛みがある場合、アセトアミノフェン(例：タイレノール®)またはイブプロフェン(例：アドビル®)を服用することができます。ASA(例：アスピリン®)は、ライ症候群のリスクがあるため、18 歳未満の方は服用しないでください。

ライ症候群の詳細は、[ヘルスリンク BC ファイル # 84 ライ症候群](#)を参照ください。

まれに、より深刻な副作用として、発熱による発作(約 3,000 人に 1 人の子供)、出血を防ぐのに役立つ血球の一時的な低下(約 3 万人に 1 人)、および脳に炎症が起こる脳炎(約 100 万人に 1 人)があります。麻疹から脳炎になる可能性は 1,000 人に 1 人で、ワクチンからよりもはるかに高いです。

100 万人に 1 人未満の割合と、アナフィラキシーと呼ばれる命に関わるアレルギー反応がでる可能性は非常にまれですが、反応が出た場合に備え、ワクチン接種後 15 分間は診療所にいることが重要です。アナフィラキシーの症状には、蕁麻疹、呼吸困難、咽喉、舌、唇の腫れなどがあります。これらの症状が出た場合、医療提供者は治療することができます。緊急治療にはエピネフリン(アドレナリン)の投与と救急車で最寄りの救急科への搬送が含まれます。診療所を去った後に症状が出た場合、**9-1-1**または地域の緊急電話番号にお電話ください。

重度または予期しない副作用が出た場合は常に、医療提供者に報告することが重要です。

MMR ワクチンを接種すべきでない人とは?

下記に該当するお様がいらっしゃる場合、医療提供者にご相談ください：

- 麻疹、おたふく風邪、風疹ワクチン、あるいは、またはゼラチンやネオマイシンを含むワクチンのいずれかの成分を以前接種した際、生命を脅かす副作用が発症したことがある
- 病気や治療によって免疫力が低下している
- 以前 MMR ワクチンを接種した後、別の原因が特定されることなく、出血を防ぐのに役立つ血球である血小板が減少したことがある
- 過去 12 か月の間に輸血または他の血液製剤の治療を受けている
- 妊娠中あるいは、妊娠を計画している。女性は、ワクチン接種から 1 ヶ月の間、妊娠を避けるべきです

風邪やその他軽度の病気により、ワクチン接種を遅らせる必要はありません。ただし、心配な場合は、医療提供者にご相談ください。

麻疹、おたふく風邪、風疹とは何か?

麻疹、おたふく風邪、風疹は、ウイルスにより発症する病気です。感染者が咳やくしゃみをする事で、ウイルスは空気中に簡単に広がります。空気を吸い込んだり、このウイルスに汚染された表面に触れることで、感染する場合があります。食べ物、飲み物、タバコの共有やキスによる感染者の唾液に触れることでも、ウイルスが拡散する場合があります。

麻疹は、赤麻疹とも呼ばれ、発熱、発疹、風邪のような症状が現れたり、目が赤く腫れ、光に敏感になる場合があります。耳や肺の感染症(肺炎)につながる可能性があります。1,000 人に 1 人に発生するより深刻な

合併症には、脳が腫れる脳炎などがあります。これは、発作、難聴、または永続的な脳の損傷につながる場合があります。麻疹患者の約 3,000 人に 1 人が合併症により死に至る可能性があります。

おたふく風邪は、発熱、頭痛、唾液腺と頬の腫れを引き起こします。より深刻な合併症には、脳の腫れである脳炎があります。おたふく風邪患者の約 20 人に 1 人は、脳皮膜に炎症が起こるムンプス髄膜炎に罹ります。おたふく風邪により、一時的に難聴となる場合もあります。2 万人に 1 人未満の割合で、おたふく風邪によって永続的な難聴となることがあります。成人および 10 代のおたふく風邪患者は、精巣(約 4 例に 1 例)または卵巣(約 20 例に 1 例)の痛みを伴う腫れを起こす可能性があります。

風疹は、三日はしかとも言われ、難聴、眼の疾患、心臓の欠陥、肝臓の損傷、脳の損傷など、胎児に深刻な合併症や先天性欠損症を引き起こす可能性があります。これは先天性風疹症候群と呼ばれます。これは、妊娠 3 か月でウイルスに感染した女性から生まれる約 10 人に 9 人の乳児に発生します。風疹により、流産や死産となる場合もあります。

現在 BC 州では、定期的な小児予防接種プログラムのおかげで、これらの疾患の発症は、まれです。

成熟した未成年者の同意

予防接種の同意について、ご両親または保護者の方とお子様で話し合うことが推奨されています。それぞれのワクチンによる恩恵と起こりうる副作用、および予防接種を受けない場合のリスクが理解できる 19 歳未満の子供は、法的にワクチン接種に対し、同意あるいは、拒否することができます。成熟した未成年者の同意の詳細については、[ヘルスリンク BC ファイル#119 乳幼児法、成熟した未成年者の同意および予防接種](#)をご確認ください。

詳細

麻疹、おたふく風邪、風疹(MMR)および水痘に関する詳細は、下記ヘルスリンク BC ファイルをご覧ください：

- [ヘルスリンク BC ファイル#14b 麻疹](#)
- [ヘルスリンク BC ファイル#14c おたふく風邪](#)
- [ヘルスリンク BC ファイル#14d 風疹](#)
- [ヘルスリンク BC ファイル#44a 水疱瘡について](#)
- [ヘルスリンク BC ファイル#44b 水疱瘡\(水痘\)ワクチン](#)

予防接種に関する詳細には、予防接種 BC www.immunizebc.ca をご覧ください。



ImmunizeBC



BC Centre for Disease Control
Provincial Health Services Authority

ヘルスリンクBCファイルピックアップに関する詳細は、www.HealthLinkBC.ca/more/resources/healthlink-bc-filesをご確認いただくか、最寄りの公衆衛生局へお立ち寄りください。緊急を要しないBC州における健康情報および助言については、www.HealthLinkBC.ca をご覧いただくか、**8-1-1**(フリーダイヤル)までお電話ください。耳が不自由な方、難聴の方は、**7-1-1**までお電話ください。ご希望により、130以上の言語で翻訳サービスがご利用いただけます。